

発行●(公財)香川県市町村振興協会 監修●香川県政策部自治振興課
HP●<http://chousonkai.or.jp/shinkou/publication/>

まちづくり最前線/三豊市

My Town

魅力的な地域の未来へ「みとよのみ」

瀬戸内うどんカンパニー株式会社 代表取締役 北川 智博さん

Top Message

価値ある仕事を日々こなす行政マンにエールを!

地域の元気印/丸亀市川西地区

People

川西地区地域づくり推進協議会



地域の各種団体が力を合わせ1995(平成7)年に発足した「川西地区地域づくり推進協議会」。
阪神淡路大震災の年に発足した同会は、やがてさまざまな取り組みで日本一の防災のまちと認められました。
防災だけでなく、森の再生をはじめ幅広い活動を行っている同会。まちづくり日本一を目指し、災害用の備蓄品のみならず地域の力を蓄えています。



三豊市



三豊のおいしいものを広めたい

魅力的な地域の未来へ「みとよのみ」

財田の米や高瀬のお茶、曾保のミカンなど、その昔からおいしいものに恵まれてきた三豊市。山から海まで多くの名産品があり、「フルーツ王国みとよ」とも呼ばれ、果物のおいしさには定評があります。ところが、県外、海外には、まだまだ十分浸透していません。そこで、三豊の“実り”の知名度アップを図るため、「みとよのみ」プロジェクトがスタートしました。



写真左から、三豊市建設経済部 農林水産課 課長 大西 司(おおにしつかさ)さん、主任 組橋 盟弘(くみはし あきひろ)さん、課長補佐 高木 克幸(たかぎ かつゆき)さん。

四十万の地で三豊の大きな可能性に気付く

「みとよのみ」プロジェクトの始まりは、平成28年度に行った高知県四十万十町への視察研修でした。この際に訪問した「株式会社四十万十ドラマ」は、高知県の四十万十川流域で地域の生産者と一緒に農産物の栽培から加工、そして販売に至るまでを手掛けています。コンセプトは「四十万十川に負担をかけないものづくり」。生産者と消費者がつながる仕組みを作り、「しまんと地栗」などのブランドを地域と共に展開していました。その素晴らしい取り組みを知ると同時に、限界集落という言葉が人ごとではない山間地の驚く

ほど厳しい実情を目の当たりにしました。過酷な環境にありながら自然の恵みを糧に必死で地域振興を図る人々。「四十万十の現状を見たことで、三豊市がいかに恵まれているかに気付かされました。大きな期待を寄せることができるポテンシャルを持っている土地だと分かったのです」と、熱く語り始めてくれたのは三豊市農林水産課の組橋主任。

同行した生産者の方々も目からウロコの思いがあり、栽培したものをそのまま販売するだけではなく、手間かけることで大きな可能性を見いだすことができる、と、がぜんやる気がわいてきたと言います。そこで、まずは生産者自らが自分たちの足元に眠っている宝を掘り出すべく「三豊

あしもと塾」を立ち上げ、株式会社四十万十ドラマ理事長の畦地さんを講師に呼び、手弁当の研修会を始めました。

豊かな実りを願う「みとよのみ」誕生

生産者さんの頑張りをベースに平成30年度には総務省の地域創造アドバイザー制度を活用し、「地域農産物付加価値づくりモデル事業」として取り組むことになり、翌年度からは一般財団法人地域の総合整備財団、通称「ふるさと財団」の地域再生マネージャー事業に三豊市は手を挙げました。

昨年度は、ワークショップを6回開催



令和2年1月に行われた2回目の県外活動。高知市内の小売店で試食販売やPRを行いました。「みとよのみ」のロゴマークにより大小ののぼりも作られ、華やかに店頭を飾ります。



三豊のフルーツを使ったスイーツ作りにも取り組んでいます。



お日さまでじっくり干した「天日干しはぜかけ米」。うまさを引き出した滋味豊かなお米です。



国内外へ「みとよのみ」を発信する機会となった「かがわ物産館栗林庵」での販売活動。



こだわりの自信作「みとよのみ」商品群。
現在参加する生産者さんは15人ほど、内5組が商品開発を行いました。

し、三豊市の農水産物の掘り起こしを行い、その魅力や伝え方、ブランドとして売り出すために何が必要かを、生産者を中心に大いに議論しました。その中から事業のコンセプトとして「みとよのみ」というキャッチコピーが生まれました。

この「みとよのみ」には、フルーツ王国の果実をはじめ、すでにある三豊市の良いもの、今後成長が期待される「芽」のような産品、それらが将来大きく実を結ぶようにとの願いが込められています。また、三豊市のおいしい農水産物がさらに豊かに実るようにとの願いも込めました。「デザインは、おいしいものを食べたときの笑顔ですよ。缶バッジを作り、まずは職員が率先して身につけています」と胸元を見せてくれたのは、農林水産課の大西課長。その声にふるさとの産品への愛情がにじみ出ていました。

「ふるさと納税」の返礼品＆Webサイト作成を計画

ロゴマークも発表され、令和元年11月には「かがわ物産館栗林庵」で、認知度やイメージアップのためのPRを行ったところ、日本人観光客のみならず外国人観光客にも大好評でした。また、今年の

1月にはコンセプト決定後初の県外活動として、高知市内の量販店で試食販売やPRを行い、大勢のみなさんが手に取ってくれました。お客さまの好反応に、生産者も大いに刺激を受けたようです。また、1月末には地域農産物附加值づくり事業の活動報告が行われ、事業に取り組んだ事業者6組が事例を発表。バイヤーさんたちの参加もあり、率直な意見もいただきました。



これらの取り組みを受けて、「今年からは販売促進と情報発信に大いに力を入れようと意気込んでいた矢先、新型コロナウイルスで大半が足踏み状態になってしまいました」と肩を落とす高木課長補佐。そこで、現在力を入れて取り組んでいるのが、「ふるさと納税」の返礼品として「みとよのみ」をセットにしPRすること。また、Webサイトを作成し販売に乗り出す計画です。東京のシェフに

来県いただき試食会などを行う計画

や商談会も可能な範囲で準備を行っています。

自立した組織と継続して売れる仕組みづくり

そうした活動を行う中で苦労したのはスケジュール調整。「扱う品目が多いのはありがたいのですが、そのために生産者それぞれの収穫期や忙しい時間がバラバラ。ワークショップを開催するにも全員の都合を合わせるのは至難の業。あちら立てればこちら立たず」と頭を抱えたのは組織主任です。

さらに立ちはだかる大きな課題は、市のサポートには限界があること。今後は、生産者さんたちが自分たちの手で継続的に売ることができるよう自立した組織やシステムをつくる必要があります。そのために現在も「みとよのみ」プロジェクトに参加する地元生産者を募集中です。「みとよのみ」の裾野が広がり、県外に認知度が広がれば、「三豊市に足を運んで、見て食べて楽しんでもらいたい」と、観光振興にもつなげたい意欲を見せる大西課長。やる気のある人達が集まれば「みとよのみ」を核に、三豊市の実りは幾重にも広がることでしょう。

香川の先進企業の力を探る あの人に会いたい！

瀬戸内うどんカンパニー株式会社

代表取締役

北川 智博さん

地域の人々を巻き込みたいと思えば、名刺だけのごあいさつでは相手の方が日頃思っていることを一方的に聞かされるだけです。1枚からでも企画書を作成し意見をいただくようにすれば、改善した企画書を持って1週間後に伺う口実ができます。二度目になると一挙に距離は縮まり、その人はプロジェクトと一緒に育てた一人になり、スタートする際には力を入れて応援してくれます。

2017年9月に三豊市の地域商社「瀬戸内うどんカンパニー」のCEO(チーフ・うどん・オフィサー)に就任した北川智博さん。高知県に生まれ15歳で既に地域の役に立つ仕事がしたいと考えていました。地方に光を当て、新しい地域の魅力作りに取り組みたいと全国各地の地域資源をプロデュースする「株式会社MISO SOUP」を東京で起業。現在も同社の代表取締役を務めながら三豊市に単身赴任し、瀬戸内うどんカンパニー株式会社の代表取締役、さらに合同会社三豊鶴の代表も務める北川社長にお話を伺いました。





観光開発事業の一つとして、三豊市自慢の絶景スポット「父母ヶ浜海岸」にオープンした『hand in hand(ハンド イン ハンド)』は、地域の魅力がたっぷり詰まったフードとドリンクを提供しています。

瀬戸内うどんカンパニー株式会社の経営理念をお教えください。

企業理念として掲げているものは特段ありませんが、「自社だけで取り組むのではなく、地域事業者と連携した事業展開」を意識しながら様々な事業に取り組んでいます。人口、経済と縮小傾向にある地域の自立的発展とは何か？弊社のヨソ者視点と地域事業者の視点を掛け合わせることで、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

瀬戸内うどんカンパニー株式会社の事業内容や取組内容についてお教えください。

大まかにいえば、ブランド開発事業、ツーリズム事業、流通開発事業の三つですが、まだ設立3年目でコロナ禍の影響もあり、これまでの事業基盤を生かしつつ今後は新たな社会様式に合わせた事業最適化をはかっています。

CUO(チーフ・うどん・オフィサー)に応募した経緯をお教えください。

東京で起業した「株式会社 MISO SOUP」で地域商社事業部を作ろうという話が出ました。全国各地から候補地を上げ、ある自治体で話が

ほぼ決まっていたのですが、三豊市が非常に新鮮な座組*で地域開発会社を作るといふ話を知り、がぜん興味が湧き応募しました。

2017年9月のCUO就任以来、今日までの道のりをお聞かせください。

通常の企業であれば、立ち上げ期間ではできるだけコストを抑え早く事業を立ち上げることに力を注ぎますが、私の場合は東京の会社で収入があり、現在も瀬戸内うどんカンパニーから給与をいただいているわけではないので、瀬戸内うどんカンパニーでやるべきことをしっかりと探して取り組むことを第一に考えてきました。

事業方針を立てる上で、まずは地域の経営資源をデータベース化することに力を注ぎ、最初の半年はとにかく人に会うことを心がけました。地域の事業者の方々が、どういう課題を持ってどういう熱量があつて、どういう技術を持っているかというデータベースを作り、この人との人が組んだらオモシロイものが生まれるなど、ブループリント(青写真)を幾つか考えてみるところからスタートしました。

とはいえ、マスコミにも議会にも市

民の方々にも注目されている状況でしたので、年度内に分かりやすい成果を出すための計画も考えつつ、中長期的な事業のビジョンを両立して構築していくというのが1年目でした。

事業性と継続性のありそうな事業プランを複数出した上で、2年目は幾つかを実行してみる。R&D(リサーチ・アンド・デベロップメント)やテストマーケティングを行い、その結果から優先順位を決めて具体的な事業を絞り、3年目には活動として、父母ヶ浜の観光開発事業や三豊鶴の活用など個々の事業を実現してきました。



地域の食資源を活用する事業としては、生産者や産地をPRし、地元企業などとの連携商品を生み出しています。



北川氏が代表の一人である合同会社三豊鶴は、地域で最後の酒蔵をリノベーション。三豊市を楽しむための複合施設として、レストランやアートギャラリー、滞在施設などとして活用できます。

クラウドファンディングでは3日で目標金額に達成した「さぬきうどん英才教育セット」についてお教えてください。

2018年から2019年にかけて、12月、1月でプランニング、2月には商品が完成し、4月にテストマーケティングを兼ねたクラウドファンディングをスタートし、5月から実際の販売を開始しました。

よそから来たのですから、地域の中にはない目線で商品開発や事業を立ち上げる必要がありました。地域の人と競合しない領域でなければなりません。例えば、流通を手掛ければ流通の事業者さんと競うことになります。その辺を意識して何ができるかです。

そこで、さぬきうどんのホワイトスペース、まだやれていない領域、誰も困らない領域とマーケットを見据え、この商品を開発しました。これならば、よそから来ても役に立つな、敵じゃないな



商品開発事業としては、讃岐うどんを家庭で作るための知識や技が詰まった「さぬきうどん英才教育キット」を販売しました。

と思つてもらえろと考えました。現在は中国語版を作成しています。

もちろんある程度の事業性は見通していましたが、それ以上の反響がありました。しかし、売れると売れるで、スタッフさんの確保や品質管理などこちらに力を注がなくてはなりません。当初は創業間も無く、全一人で事業を回していたので、眠れない日が続くことになりました。

三豊の観光資源や魅力的な農作物のプロデュースも手掛けていますが、地域とのつながりで意識していることがあれば教えてください。

“波及”というのがキーワードです。地域商社は、いろんな人の話を聞いて、いろんな人の役に立つという万能で「なんでも屋」的な理想論では失敗します。この人を変えたら地域に波及効果があるという特定の一人を選ぶところから始まります。

三豊市は、地域商社の仕組みが先進的でした。100%資本も責任も任せてもらい、赤字は全て自分が責任を持つので、一切妥協するつもりはありません。指名をしていただいた以上、民間の一経営者としてどう体制を作り、地域全体にどう恩返しができるか。このテーマがぶれ

てはいけないと思つています。

ところが、どこの地域もぶれがちなんです。議会からの意見が出たとか、世の中の的にこういう時代だとか、商社だからモノを売らなければならぬとか、箱物ができるのでそれを優先させるとか、そういう理由でぶれてしまいます。民間の目線で限られたヒトモノカネの経営資源で「集中と選択」を行い、できるだけシンブルに考え、実行していくことが大切だと思います。

まだ公表されていない新商品や商品案などがありましたら、お教えてください。

商標はとりましたがコロナ禍で一旦休止になったのが「うどん茶」という成人病対策健康茶です。地域資源を活用して、成人病対策のソリューションを発信すれば、確実に手応えがあることが見えていたのですが、世間の関心は感染症対策に移ってしまったので一旦計画を休止して、タイミングを見計っています。

もう一つは薬膳を意識したクラフトコーラです。三豊市を薬膳のまちにしようというプロジェクトがあり、それに合わせてブランディングを進めています。薬膳のマーケットは非常に

伸びているので、目の付け所も最高に良いし面白いのですが、一方で薬膳には普及しづらいお堅いイメージがあります。普段は薬膳に関心のない方にも興味の裾野を拡げられるのではないかと思います。日本では意識が高い人とそうでない人の対立構造が生まれやすいので、そうならないよう、ポピュラーで親しみやすいコーラから手掛けることにしました。

目指すべき人材についてお聞かせください。

私自身は「ヨソ者の視点と実際に地域で事業を営む経営者の視点を両立できる人材」を目指しています。一緒に働く地域事業者さんやスタッフのみなさんと視点の違いを生かし合うことで、より持続可能な地域の発展に貢献したいと考えています。

社長ご自身、休日はいかがお過ごしですか。

これまでの3年間は休日という概念もなく、買い物にもレジャーにも出かける余裕はありませんでした。仕事以外のプライベートで鳥巡りや高松に出かけることもなかったので、

正直三豊市のことしから知らないんですよ。この3月末で3カ年の事業が終わったので、釣りでも始めて今まで見えていなかった瀬戸内や三豊の魅力をもっと味わいたいと思っていたところに、コロナ騒動で外出しにくい情勢になってしまいました。

香川県や市町の行政に感じていることがありましたら、お聞かせください。

こんなに近くで行政の方と仕事をするのは今までありませんでした。最終的には行政マンはすごいなという感覚を持ち、尊敬の念を抱きました。3年間一緒にお仕事をさせていただいた行政の方々とは、行政と民間の考え方の違いから時には対立することもありました。けれど、最後は三豊市のためにどうすれば良いかを共に考え、妥協案を見つけて信頼関係を築いてきました。三豊市は覚悟を決めて向かってくれました。行政と民間の価値観は違いますが、理解してくれた上で民間が生きる座組*を考えてくれたのが三豊市でした。そこに、はまる人間として僕がたまたま来ただけです。

市民の方々は普段は見えない行政の仕事に興味を持ってみてほしい。行政マンは「価値がある仕事」「必要な仕事」「尊敬されるべき仕事」というプライドをもっと持つてほしい。

行政マンのみなさん、尊敬しています。みなさんがいなければ、地域は成り立たないんだから、心からエールを送ります。

*「座組」とは、歌舞伎や寄席などでの出演者の構成のことから転じて、ビジネスではプロジェクトに参加するメンバー構成、所属会社の構成「プロジェクト体制」の意味でも用いられる。



北川 智博 (きたがわ・ともひろ)

高知県出身 (東京と香川在住)
昭和60年10月14日生まれ 34歳

平成21年 3月 中央大学 総合政策学部 卒業
10月 株式会社オフィス2384 入社
平成23年 8月 アライドアーキテツ株式会社 入社
平成28年 1月 株式会社MISO SOUP 創業
平成29年 9月 瀬戸内うどんカンパニー株式会社 UCOに就任
平成31年 3月 合同会社三豊鶴 共同創業 代表社員に就任 現在に至る。

瀬戸内うどんカンパニー株式会社
本社所在地 香川県三豊市詫間町詫間1351番地1

PROFILE



流通開発事業としては、三豊市に眠る価値のある産品や商品を発掘し、全国のマーケットに対し新たな販路開発を行っています。



総務省政務官室で斎藤政務官にWEBで共同要望。
左から梶市長、浜田知事、谷川町長。

市町との共同要望 「新型コロナウイルス感染症対策に係る 地方財政措置等について」



厚生労働省の橋本副大臣に共同要望。

令和2年7月29日に浜田知事と県内17市町の首長とがオンライン会議を開き、長期化が懸念されている新型コロナウイルス感染症対策について、国への共同要望案をまとめました。

要望の概要は、次のとおりです。

1. 新型コロナウイルス感染症対策に係る地方財政措置等

○経済・雇用情勢や感染拡大の状況にに応じて追加の対策を講ずるとともに、感染拡大防止と経済の活性化を両立させるため、情報通信基盤の整備を進め、地方への人の流れを加速化させる事業に必要な経費について財政措置を講ずること。

○減収補てん債制度の対象の拡充、公的資金の確保など地方団体の安定的な資金確保に向けた対策を講ずること。

2. 地方一般財源総額の確保・充実

○地方が責任をもつて、生活や地方経済を回復するために必要な対策をはじめとした様々な施策を十分担えるよう、必要な地方一般財源総額を確保・充実すること。それにあたっては地方単独事業に必要な財源についても十分に確保すること。

○特に地方交付税は、法定率の引上げ・対象税目の見直しなど抜本的な改革を目指すとともに、これまでに約束した財源措置を確実に履行したうえで、新たに生じる財政需要を適切に捕捉し、適切な額を確保すること。また、基準財政収入額の算定において、住民、事業者の収入の落ち込みを勘案し、徴収率を見直す等の対策を講ずること。

3. 医療提供体制や検査体制の強化

○「新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金」をより幅広く使えるよう交付対象を見直すとともに、交付金の増額に速やかに対応すること。

○国負担により行うPCR検査の対象に被災地への応援職員等を加えること。

○令和3年度以降においても引き続き、財政措置をはじめとした必要な措置を講ずること。

4. 子供たちの学習機会の確保

○オンライン教育について、令和3年度以降も毎年度生じる保守管理経費に係る適切な額を見込むとともに、端末更新時にも必要な財政措置を講ずること。また、令和3年度以降の国庫補助金の対象を拡充するとともに、高等学校等においても義務教育段階と同様の財政措置を講ずること。

5. 公共交通事業者の事業継続のための支援

○公共交通事業者が新しい生活様式の中で路線を維持するために地方が実施する利用者回復に向けた取り組みについて、必要な財政措置を講ずること。

8月28日、浜田知事、市長会会長の梶丸亀市長、町村会会長の谷川宇多津町長が内閣府の大塚副大臣、厚生労働省の橋本副大臣、総務省の斎藤政務官(WEB対応)を訪れ、共同要望を行いました。総務省では、減収補てん債の対象拡大、地方一般財源の確保・充実、オンライン教育に係る財政措置、公共交通事業者の事業継続のための支援への財政措置等を要望し、斎藤政務官からは、地方の実情をしっかりと聞きながら検討したい旨の発言がありました。

公営企業の更なる 経営改革の推進について

地方公共団体が経営する上下水道や病院などの公営企業については、今後予測される急速な人口減少等に伴うサービス需要の大幅な減少や施設の老朽化に伴う更新需要の増大などにより、経営環境が厳しさを増していくと考えられています。

将来にわたり必要な住民サービスを安定的に供給するために、「経営戦略の策定・改定」、「公営企業の抜本的な改革」、「公営企業の『見える化』」といった、持続可能な経営の確保に向けた積極的な取組を推進することが求められています。



政策部 自治振興課
主事 佐々木 聡



経営戦略の策定・改定とは？

経営戦略とは、各公営企業が安定的に事業を継続するための中長期的な経営の基本計画のことです。

経営戦略の中心となる「投資・財政計画」は、施設・設備に関する投資の見通しを試算した計画と、財源の見通しを試算した計画を構成要素として、投資以外の経費も含めたうえで、収入と支出が均衡するよう調整した収支計画です。

経営戦略の策定は、令和2年度末までに策定率100%とすることが要請されているため、未策定の公営企業については今年度中に策定することが必要になります。

経営戦略は、策定後も一定期間ごとに評価・検証を行った上で、収支均衡を図るための具体的な取組の検討を反映する改定を行うことにより、経営基盤強化と財政マネジメント向上のための重要なツールとなります。



公営企業の 抜本的な改革とは？

公営企業の抜本的な改革とは、事業そのものの意義、

提供しているサービス自体の必要性及び事業としての持続可能性について検証するとともに、経営形態の在り方について検討を行う取組のことです。

事業ごとの特性に応じて、事業廃止、民営化・民間譲渡、広域化等及び民間活用という4つの方向性を基本とした検討が必要とされています。

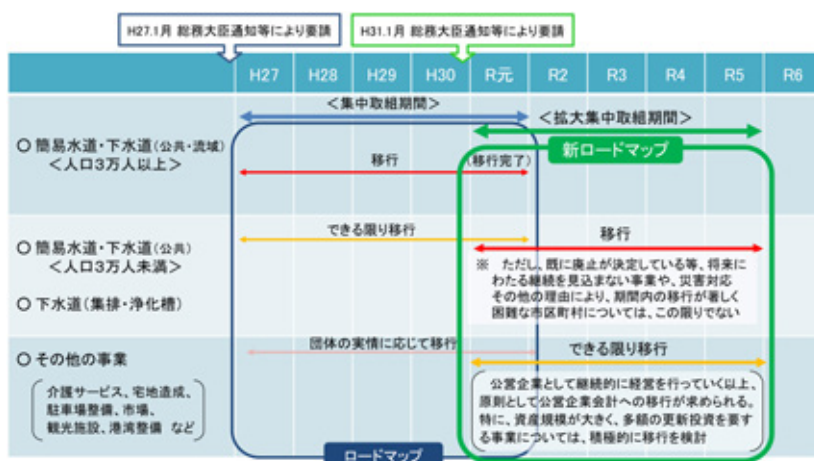
香川県では、水道事業の広域化についての長年の協議を経て平成29年に香川県広域水道事業団が設立され、平成30年4月に県と8市8町で水道事業が統合されました。



公営企業の「見える化」とは？

公営企業の「見える化」の推進では、公営企業会計の適用拡大と経営比較分析表の作成・公開が求められています。

公営企業会計は、発生主義・複式簿記であり、経営成績や財政状態の早期把握が可能とされています。公営企業会計の適用と経営比較分析表の作成により、各公営企業の経営状況の的確な把握、施設の更新などの資産状況の



適正な把握、投資資金の期間配分の算定による料金対象原価の適正な計算等が可能になるとされています。これらのことは、経営戦略の策定・改定や抜本的な改革を行ううえで重要になるため、公営企業会計適用の取組期間は次の図のとおりとされています。

第32次地方制度調査会の 答申について

著：香川県政策部自治振興課

はじめに

法律（地方制度調査会設置法）に基づき、昭和27年度より設置されている「地方制度調査会」は、時の内閣総理大臣の諮問に応じ、地方制度に関する重要事項を調査審議し、累次の答申を出してきた。関係府省においては、この答申に基づき、制度改正などの検討が進められ、地方制度に関する法改正などにつながることが通例（※1）となっており、地方制度調査会の答申の内容を把握することは、各地方公共団体における今後の組織運営などを検討する上で、欠かすことができないといっても過言ではない。

（※1）答申の内容に基づき検討が進められる結果、制度改正に至るもの、至らないもの、いずれも存在するものの、何らかの制度改正が講じられることが通常である。

平成30年7月5日に安倍内閣総理大臣から「人口減少が深刻化し高齢者人口がピークを迎える2040年頃から逆算し顕在化する諸課題に対応する観点から、圏域における地方公共団体の協力関係、公共私

ベストミックスその他の必要な地方行政体制のあり方について、調査審議を求める」との諮問を受け、「第32次」地方制度調査会が審議を開始した。5回の総会と39回の専門小委員会にわたる議論の結果、この令和2年6月26日に答申が出されている。

本答申は、A4で25ページほどの分量であり、約2年にわたる調査審議の集大成としては比較的簡潔にまとめられているものの、増大する目下の業務と日々向き合う各市町等の職員が本答申を熟読する時間を確保することは中々困難であるなどの声も聞かれるところ、本答申の特にポイントと考えられる箇所を抽出・列記してはどうかと考え試みるものがある（※2）。

（※2）当該「特にポイントと考える箇所」についてはあくまでも自治振興課で抽出・列記したものであり、地方制度調査会事務局に確認などしたのではないことは念のために注記する。

このため、本紙面の内容は必然簡素なものとなるが、関心を持たれた箇所などについては原文に当たっていた

だきたい。また、本答申自体はもちろんのこと、各総会・専門小委員会において配布された資料についてもWEBに掲載されていることを申し添える。

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/singi/chihou_seido/singi.html

答申の構成

本答申の構成としては、最初と最後にそれぞれ、前文・結びが置かれており、本体部分については、第一から第五の5つに章立てされており、具体的には次のとおりとなっている。

- 第一『基本的な認識』
- 第二『地方行政のデジタル化』
- 第三『公私の連携』
- 第四『地方公共団体の広域連携』
- 第五『地方議会』

第一『基本的な認識』

- 次の3つの節で構成される。
- (1) 2040年頃にかけて

顕在化する変化・課題

(2) 新型コロナウイルス感染症の
リスク・課題

(3) 目指すべき地方行政の姿

(1) 2040年頃にかけて
顕在化する変化・課題

顕在化する変化・課題

・人口構造の変化と課題…

既に多くの市町村が人口減少と高齢化に直面しているが、今後は、大都市圏を含め、全国的に進行する。

・インフラ・空間に関する変化と課題…

都市的土地利用の面積は、人口減少に転じて増加傾向が継続。空き地・空き家の増加が進行し、都市の低密度化・スポンジ化が一層課題となる。

・技術社会等の変化と課題…

新たな技術を活用したサービスの利用者の少ない地方も含めた全ての地域において、技術を活用できる人材の育成や、5Gなど Society 5.0の基盤となる設備整備が課題となる。

組織や場所にとられない柔軟な働き方、生き方を選択できる社会となる。また、地域づくりの実践が、移住者や、複数の地域への多様な関わりをもつ関係人口

を呼び込み、豊かな自然環境に

囲まれた生活や働き方、地域課

題を解決するため地域に関わる

ことに価値を見出す人々や企業

が増加する可能性。国籍等に関

わらず暮らしやすい地域社会づ

くりが求められる。

大規模な地震が高確率で発生し、気候変動による広域かつ甚大な風水害が頻発し都道府県の区域を超えた広域課題として顕在化する。

・まとめると、日常生活に支えを必

要とする人や適切な管理・更新

が求められるインフラの需要が増

加する一方、支える人材が減少

するギャップにより、多様な分野

において課題が顕在化する。

東京一極集中の継続は人材の

偏在に拍車をかけ、課題を増幅

させる。

他方、技術の進展やライフコー

ス・価値観の変化多様化は、これ

らの課題の現れ方を緩やかにし、

変えていく可能性もある。

(2) 新型コロナウイルス感染症の
リスク・課題

リスク・課題

・外出抑制や人と人との接触機会
の低減が地域の経済活動の制約

要因となる。

・人口・産業の集積する大都市圏

における感染拡大は、人口の過

度の集中に伴うリスクを浮き彫

りにしている。

・医療提供体制の確保や困難に直

面している人に対する生活支援

等が継続的に行われる必要があ

り、地方公共団体が他の地方公

共団体や国と協力して対応する

ことが重要である。

・デジタル技術の活用が社会経済

活動の継続に大きな効果を発

揮している。

(3) 目指すべき地方行政の姿

・(1)(2)で触れた変化やリスクに適

応していくためには、人口増加や

従来の技術等を前提に形成され

てきた現在の社会システムをデ

ザインし直す好機と捉え、官民

問わず、国・地方を通じて対応し

ていく必要があり、とりわけ地

域課題に総合的に対応する地

方公共団体に求められる役割は

大きく、そのあり方を変化やリ

スクに適応したものへと転換して

いく必要がある。

・求められる対応としては、第一
に、地方のデジタル化。第二に、

公共私の連携と地方公共団体の
広域連携。第三に、地方議会へ
の多様な住民の参画。

・また、市町村の現在の状況や課
題、今後の変化の現れ方は多様。

そのため、具体的にどのような資

源制約が見込まれるのかについ

て、各市町村がその行政需要や

経営資源に関する長期的な変

化の見通しの客観的なデータを

基にして「地域の未来予測」とし

て整理することが考えられる。

住民の日常生活の範囲が市町村

の区域に広がっている地域など

ではこの整理を共同で行うことも

有用である。

・都道府県においては、市町村の求

めに応じ、その整理を支援し、地

域の変化課題の見通しを市町

村と共有することが重要であ

る。国においては、各府省の政策

に関わるデータ等の情報提供を

行い、国・地方を問わず、住民や

地域社会を支える様々な主体が

データを活用できるようにする

ことが必要である。

(第二以降の内容については、次号に続く)

香川の まち歩き

神様が十番目につくった島と言われる小豆島では、神代の昔から塩の採取を行ってきました。



今回の歴史ガイドは、ヤマサン醤油株式会社代表取締役塩田洋介さん。通常の馬木散策路は2時間のコースで、小豆島の話・醤油の話・佃煮の話・そうめんの話・オリーブの話とティスティング、工場見学の後には自由散策です。

藻を海水に浸し天日で干すと塩をふいてきます。それを集めて火にかけて塩を取るという簡単な方法です。取れた塩は神様や権力者に捧げてきました。そうして、権力者とゆかりの深い島となりました。塩の後は操船技術を誇る水主が重宝され、戦国時代は豊臣秀吉の直轄地である太閤蔵入地となり、江戸時代には幕府の直轄地である天領となりました。ちなみに、小豆島の名前の由来ですが、50あまりの説があると言われています。小豆島は瀬戸内海で一番高い山があります。横から見ると厚い島、厚き島から「阿豆枳島」、転じて「小豆島」となったという説もあり、風任せの時代、安全な航海に欠かせない島に大切な食糧の名前を付けたとも考えられます。日本の小さな島々の名前を見ると、米島や粟島

ひしお
醬とは、塩を加えて発酵させた塩蔵品の総称のこと。太古の昔から塩づくりを行ってきた小豆島は、良質な塩づくりを礎に醤油しょうゆの産地として成長してきました。その歴史を語る醬の郷は、自然と暮らしが一つになった日本のものづくりの原風景が残る郷。今回はその郷の「馬木散策路」を訪ねます。



ひしお 醬の郷「馬木散策路」 小豆島町



ヤマサン醤油さんから20分ほど歩くと高台にある今坂池に到着します。ここから郷の眺めは秀逸。ベンチがあり池の風も心地よい。



「ヤマサン醤油」さんは、1846(弘化3)年創業の小豆島町で一番古いお醤油屋さん。塩田代表はその五代目です。





焼杉の板の塀が印象的な町並みには、文化庁の登録有形文化財建造物や経済産業省の近代化産業遺産に認定された建物が点在しています。写真は正金醤油さん。



江戸時代創業の「ヤマサン醤油」さんの麹小屋がお土産処となり、馬木散策路の案内所ともなりました。足掛け三年かけて造る「再仕込み醤油」や小豆島産オリーブオイルのテイastingができます。

小豆島の醤油の伝統を広めるために誕生した「ひしお井」。醤油やもろみと小豆島の食材で作られた小豆島ならではの味わいを堪能することができます。写真はお土産処「麹部屋」のひしお井「オリーブハマチづけ井」。



東華山真光寺は、赤穂から来た塩浜師さんゆかりの寺といわれ、境内にはシンバクとクスノキの大樹がそびえます。



塩田代表の発案による木桶をかたどった住所の札が各玄関などにあり、醤油の郷の風情を盛り上げています。

しかし、平成に入って醤油づくりには陰りが見え始め、後継者がおらず廃業が続きます。現在は小豆島全体で19社、馬木では5社が残るのみになります。また、醤油造に必要な木桶きおけを造る人も日本全国を探してもいなくなるという危機的状況にあります。そこで、醤油の郷のヤマロク醤油さんが木桶職人復活プロジェクトを立ち上げ、木桶づくりの継承に努めています。醤油造りも木桶

など穀物のついた名前が目につきます。さて、太古からの塩づくりに革命が起きたのは戦国時代の1572〜3年頃、播州赤穂から塩を造る技術を持った塩浜師が数名、馬木の土地にやってきました。造ってみると思った以上の良い塩ができるので、次々と塩浜師が移り住んできました。やがて、赤穂塩、灘塩、小豆島の「島塩」は上質な塩として人気を呼び、綿や米の相場の基準となるほどでした。しかし、瀬戸内海沿岸のあちこちで塩が造られるようになり、塩の値は下がってしまいました。そんな島に持ち上がったのが、大坂城築城のための採石です。各地からやってきた石切奉行が、醤油もしくは醤油の前身を小豆島にもたらしたと伝わります。塩が豊富にあり、船により大豆や米を手に入れることがたやすかった小豆島では、さっそく醤油づくりが始まりました。江戸時代後期の1780年代の終わり頃からは、関西方面に醤油の出荷が始まり、島の醤油はうまいと注文が次々とやってきました。それに合わせ、下請けから孫請けと醤油造りをする人が増え、明治時代には400軒もの醤油屋さんが島にひしめき、明治38年には日本初の醸造試験場が小豆島に誕生しました。



調査によると、全国に約2700〜2800本の木桶があり、実際に使われているのは約2000本。その中で1100本余が小豆島にあり現役で使われています。

石垣と蔵の風景もノスタルジーを誘います。周辺には、石井平治醸造場跡などの建物も点在。廃業になる醤油屋さんも多く、存続の危機にある建物も少なくありません。



も貴重な日本文化です。また、自然の中に人々の住まいがあり、その中に営々と醤油を造り続ける醤油蔵が点在する馬木の景色は失ってはならない日本の原風景です。それでは、塩田代表の味わい深いお話をかみしめながら馬木散策路に踏み出しましょう。



「馬木散策ガイド」問い合わせ先

ヤマサン醤油株式会社 ☎0879-82-1014
FAX 0879-82-7222
URL <http://yamasanshoyu.com/>
Mail yamasan@coda.plala.or.jp

散策路沿いのオリーブ畑の中には瀬戸芸で話題になった清水久和さんの「オリーブのリーゼント」も見えます。

香川の自治に新しい力 New Face

はじめまして

観音寺市
高齡介護課
村上 稚奈さん



■目指す人物像は？

自然と人が集まるような安心感があり、周りから信頼される保健師を目指しています。

■観音寺市をこうしたい！

市民の方が、健康で自分らしく暮らし続けることができるような魅力あふれるまちにしたいです。

東かがわ市
農林水産課
岡崎 律道さん



■あなたのチャームポイントは？

優しい笑顔です。優しい雰囲気です、周りを和ませることがができます。

■東かがわ市のいいところは？

美味しい食べ物がたくさんあるところです。世界で初めて養殖に成功したハマチを筆頭に水産物はとても美味しいです。

直島町
総務課
槇岡 修生さん



■あなたのチャームポイントは？

鍛え上げられた筋肉です。自宅にある専用ルームで毎日トレーニングしています。

■直島町のいいところは？

海外からも多くの観光客が訪れる、アートを楽しめる島です。自然と調和した美しさを味わうことができます。

琴平町
子ども保健課
白川 結子さん



■目指す人物像は？

正確な情報をたくさん身につけ、常に住民目線に立つて対応ができる人でありたいです。

■琴平町のいいところは？

金刀比羅宮の門前町として栄え四季折々の風景が楽しめ、少し歩けば味わい深い古き良き街並みが広がっているところです。

さぬき市
都市整備課
浅利 大樹さん



■今、熱中していることは？

フェシングです。現在、社会人の大会に出場しようとしており、練習をしています。

■さぬき市のいいところは？

自然が豊かなところです。大串半島や津田の松原など多くの名所があります。大串半島ではキャンプも楽しめます。

三豊市
都市整備課
五反田 知穂さん



■目指す人物像は？

どんな仕事に対しても、意欲的に取り組めるような人を目指したいと思っています。

■三豊市をこうしたい！

市民の方々に「三豊市に住んで良かった」と思っていただけのような、親しみのあるまちにしたいです。

綾川町
健康福祉課
宮本 花梨さん



■今、熱中していることは？

バドミントンです。体協をはじめ様々なチームの練習に週9回も行くほど熱中しています。

■綾川町をこうしたい！

「人」と「人」との繋がりを大切に、住民同士が助け合える温かいまちにしたいです。笑顔溢れるまちづくりに努めます。

まんのう町
学校教育課
堀川 智貴さん



■あなたのチャームポイントは？

元気で活発なところです。明るくをモットーに毎日楽しく過ごすように心がけています。

■まんのう町をこうしたい！

町民の方はもちろん、町外の多くの方に「まんのう町」の良さをもっと知ってもらい、活気あふれるまちにしたいです。



10日分の備蓄が整理整頓されている倉庫が
ずらり。大型発電機も備えています。



地域の小学校とも連携し、子どもたちも繰り返し防災を学び訓練して
います。写真は丸亀市立城辰小学校での防災訓練の一コマ。



丸亀市
川西地区

防災日本一からまちづくり日本一を目指し

川西地区 地域づくり推進協議会

(川西地区地域づくり推進協議会 岩崎 正朔会長)

川西地区は丸亀平野の中心部にあり、香川県で唯一の一級河川「土器川」の扇状地に広がる地域です。この地の婦人会、老人会など各種団体を取りまとめ、1995(平成7)年春に誕生したのが「川西地区地域づくり推進協議会」。阪神淡路大震災の年に発足した同会にふさわしく防災に力を入れようという結論に達し、2004(平成16)年には同地区の自主防災会会長に岩崎正朔さんが就任し、防災まちづくりの快進撃が始まりました。

2001(平成13)年に行った淡路島などへの研修を基礎として、世代を超えた防災講座を開き、防災マップを作成。地域の絆を強固にする防災ネットワークづくりや繰り返し行う防災訓練、ユニークな取り組みとしては企業との連携体制をつくり資金援助も受けて、災害備蓄品の整備などを着々と行いました。

これらの活動により、2010(平成22)年には第14回防災まちづくり大賞一般部門総務大臣賞と防災功労者内閣総理

大臣表彰、2014(平成26)年には第18回防災まちづくり大賞選定委員特別賞を受賞するなど県や国の各賞を受け、今年の3月には「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)」※金賞を受賞しました。強靱化の例として、川西地区では、実際の災害を想定し、行政のレスキューが来るまでの日数を考え、非常用電源や食料はもちろん下着や歯ブラシなど地域の人々が自力で生き延びる備えを10日分備蓄しています。同会は、全国の災害地へも積極的に救援ボランティアを派遣していますが、現地で学んだこともその都度生かし、例えば口腔衛生用のウェットティッシュや軽くて使いやすいアルミのスコップなど、被災地での経験による備蓄も増やしました。また、防災のみならず人権部、青少年健全育成部、女性部など9つの部門を持ち、テーマごとに活動を深めています。ちなみに、環境部では2022



岩崎正朔会長は、川西地区連合自治会会長、川西地区自主防災会会長、川西コミュニティ自治会会長をはじめさまざまな要職をこなしています。



土器川沿岸で行う森の再生事業。

(令和4)年度の完成を目指し、土器川沿いのミニ公園整備に取りかかりました。

さらに今、岩崎会長が力を入れているのが日本一のまちづくり。そのため「川西コミュニティ自治会」の拡大を図りました。人口減少や高齢化などで各地の自治会は崩壊寸前。ここでは、わずかな会費で大きなメリットがある「チームかわにし(川西自治会)」への参加を呼びかけています。ちなみにメリットとは、ゴミステーションやカープミラー、防犯灯などの設置、地域ショップと連携した買いものに便利なバスポートなど。その効果もあつて今年7月には自治会加入率が62%を突破しました。「防災まちづくり

日本一から、次はまちづくり日本一」とますますはりきる岩崎会長です。

※ジャパン・レジリエンス・アワード
一般社団法人レジリエンス・ジャパン推進協議会が、強靱な国づくりや地域づくりなどに取り組む先進的な企業や団体を評価表彰するという

DATA

川西地区地域づくり推進協議会
川西コミュニティセンター内
☎0877-28-5519

ハロウィン ジャンボ

5億円

1等前後賞合わせて5億円
1等3億円、前後賞各1億円

当さんの
チャンス
広がる

1

ハロウィン ジャンボ

1千万円

1等1,000万円

2つのジャンボで
ラッキー
ハロウィン!

インターネット
購入はこちら!



宝くじ公式サイト

<https://www.takarakuji-official.jp/>

この宝くじの収益金は
市町村の明るいまちづくりや
環境対策、高齢化対策など
地域住民の福祉向上の
ために使われます。

9月23日(水)

同時
発売

各1枚 300円

発売期間/9月23日(水)~10月20日(火)
抽せん日/10月27日(火)



2020年新市町村振興宝くじ

公益財団法人 香川縣市町村振興協会